

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870902406		
法人名	有限会社PPKちょうしんき		
事業所名	グループホームあんだんて西宮五月ヶ丘		
所在地	兵庫県西宮市五月ヶ丘12-9		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町村受理日	平成24年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成23年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の一角にあり、静かで落ち着いた環境の中、穏やかな暮らしをおくることができます。職員は、利用者の生活史、個々の生活スタイルをよく把握し、理解することから始め、その経験、知恵に敬意を表し、尊厳ある生を支持し、自己実現をサポートするよう努めています。職員の都合でのスケジュール作りは一切行わず、利用者一人ひとりのペースに配慮し、個別ケアを徹底します。利用者が自由に外出したり、地域との交流ができるよう、「鍵をかけない」ケアを徹底しています。また、医療との連携を密にし、内科医が定期的に往診して各利用者の健康管理を行うとともに、必要に応じて職員が希望する医院への受診支援も臨機応変に行います。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の住宅地にあるが、付近には公園・スーパー等もあり、散歩等の日常的な外出機会を増やすよう取り組んでいる。職員の都合でのスケジュールづくりは行わず、入浴や食事等でも利用者一人ひとりに合わせた対応が行われている。職員の育成・向上にも努め、各種の研修の充実を図っており、職員の定着率もよく、利用者との馴染みの関係が築かれている。内科医による定期的な往診や、地域の訪問看護ステーションとの連携もあって、利用者や家族に医療面での利便性・安心感を与えている。また、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、必要な関係者と話し合い夫々の意見や意向等を反映した介護計画がつけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し、社会貢献することが理念に謳われており、その共有、実践に努めている。	「ここにいる全員が地域の一員としての役割を演ずるよう努力する」という地域密着型サービスの意義も採り入れた事業所独自の理念をつくっている。理念を玄関に掲示するとともに、スタッフ会議等で日々のケアを理念に立ち戻って振り返っている。利用者や事業所が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域との交流等理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にという難しいものがあるが、事業所の玄関は常に開放されており、近隣の人々が行き来できるようになっている。また自治会の公園清掃に職員が出向き、協力している。	地域の自治会に加入し、公民館での「ふれあいサロン」等に参加するとともに、「トライやるウィーク」での近隣中学生の受け入れや合唱部の来訪、クリスマスの時期には幼稚園児が来訪する等地域と交流している。散歩時には挨拶を心がけ、時には地域住民が「衣類やのれん」を持参する等、人々がお互いに支え合う双方向の関係が築かれている。また、地域の清掃活動への参加や子ども会のダンボール等の資源回収への協力等、ともに暮らす地域住民の一員として地域で必要とされる活動や役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の役員との話し合いの場などで管理者が事業所の特徴を伝えることはあるが、もう少し組織的に事業所のできる役割の模索が引き続き必要かと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で左記のような報告や話し合いを行っており、少しずつその結果を職員間で共有しつつある。	家族代表・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員等をメンバーに概ね2ヶ月に1回以上開催している。会議では利用者の状況や事業所の取り組み状況、第三者評価の受審結果とそれに対する目標達成計画等の報告や話し合いを行っている。作品展への出品作品づくりなど趣味を活かしたレクリエーションの充実等そこでの意見・提案等をサービスの向上に活かしている。	より多くの提案・意見等をサービスに活かし、外部者へ意見等を表わせる機会を設けるためにも、利用者にも状況に応じて可能な限り参加を呼びかけてみてはどうか。また、全ての家族に参加を呼びかける計画があるのでその実現が望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で①地域の自治会長②地域包括支援センターの職員と意見を交換し合い、また必要な際には連絡を取り合うなどしている。	運営推進会議に参加している地域包括支援センターの職員を通じて、事業所の状況や取り組み等の情報提供を行うとともに、事業所から直接運営推進会議議事録を介護保険課に持参している。法令解釈や運営上の相談等で連絡を取り合ったり、時には市の職員も参加する「グループホーム連絡協議会」で情報交換を行う等協働関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯を除いて一切行わず、それを含めて身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	内部研修を実施し、今まで一部無意識で行っていたことを振り返り、身体拘束がもたらす弊害や禁止の対象となる具体的な行為の理解を深めた。身体拘束の、正しい理解と再認識とともに、家族にも身体拘束により予測されるリスクを説明し、見守りの徹底等で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。エレベーターは自由に使用でき、フロア入りドアや1階玄関も日中施錠せず、利用者の外出希望や気配を感じた時は職員がさりげなく付き添って外出している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止に関して全職員が注意し、努めている。また、高齢者虐待防止法関連について施設内研修会を開催し、その認識を共有している。	内部研修を実施し、ネグレクト等精神的な虐待を含め高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っている。管理者は職員の日々の表情や言動に留意し臨機応変に声かけ・面談等を心がけ、職員のストレスや疲労が利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。利用者への声かけ等で職員がお互いに注意し合う環境があり、また入浴時や更衣時に傷等がないか等に留意している。発見した場合の職員の責務や対応方法を周知徹底し、状況に応じてかかりつけ医に相談・連絡する等、家庭や事業所内での虐待が見逃されることの無いよう注意を払い防止に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を実施し、知識を共有するようにした。また実際に成年後見制度を利用しておられる利用者の例があり、そこから実務的に制度を理解し、学んでいる。	内部研修を実施し、職員も成年後見制度等権利擁護に関する事業や制度について学んでいる。入居後制度を利用している人があり、当事者間の連絡調整や手続き面での支援を行っている。また、情報提供用資料等も準備しており、新たに活用支援を必要とする利用者があれば、いつでも活用・支援できる体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約に伴っては、個々の利用者の家族と十分に時間をとり、質疑応答などの場を持っている。	契約時に契約書・重要事項説明書を本人・家族に質疑応答を行いながら、十分時間をかけて説明している。特に認定手続き、夜間の職員体制、退居条件等は十分理解・納得が得られるよう説明している。加算内容や利用料金が利用者に理解し易いよう契約書を改定する時等は、文書を家族に送り同意を得ている。入院等で家族から契約の解除を申し入れた事例はあるが、事業所から申し入れた事例はない。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族代表が意見を述べたり、各家族との面会の際に意見、要望を聞いたりして運営に反映させる努力はしている。意見箱も常設しているが、実際に意見を入れる方はほとんどいない。	家族訪問時に利用者の体調等状況報告を行いながら、家族等が意見や要望を表し易い雰囲気づくりに努め、些細な意見や要望も連絡ノートに記録として残して情報を共有している。また、家族会、運営推進会議等でも要望や意見等の把握に努め、投函しやすいように「ご意見箱」を職員等がいない1階玄関に設置する等の配慮を行っている。注意を払いながらの居室の清掃の徹底等、表わされた意見・提案等を運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営に関する職員の意見を聞き、代表者に伝えるという方法をとっている。	毎月スタッフ会議を開催して職員の意見を聞き、日々の職員との係わりの中や連絡ノート等でも意見・提案等を把握している。随時管理者は個人面談を行い、意見の把握とともにモチベーションの向上にも努めている。事業所間の異動は極力行わず、各フロアの居室担当も概ね固定して、利用者や職員の馴染みの関係に配慮している。歩行が不自由になってきた利用者へのマッサージ法の習得等の提案を運営に反映させている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況を集約し、代表者に報告、説明し、就業環境の改善を図るように取り組んでいる。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修機会を提供している。今後は事業所よりの研修補助なども利用して、管理者はその機会を計画的に増やし、アレンジしていく必要がある。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西宮市のグループホーム連絡協議会に参加し、交流を図っている。その内容が管理者に止まらず各職員にまで浸透できる工夫が必要。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の前段階でご本人を訪問、面談、また体験入居などを重ねて、ゆっくりと関係作りに勤めている。まずはよく傾聴するところから始めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時や来訪時に家族との面談の中で、家族の困りごと、要望などをよく聞き、家族と本人との築かれてきた関係や社会的背景などにもよく配慮した対応を心がけている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中で、当事業所の利用が最良の方法なのかの見極めも行い、実際に入居を勧めず、地域包括支援センターに繋いだ事例もある。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の経験、知恵に敬意を表し、利用者から学びつつ、信頼を勝ち取るような馴染みの関係を築き、よきパートナーになるという理念の実践を図っている。		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時にはできるだけ面談の場を持つと共に、毎月の「家族への手紙」を通じて、詳細な報告を行い、随時、電話でも話し合いを行うようにしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一例として整髪の際には必ず馴染みの理髪店に行かれる利用者がいて、その支援を欠かさず行っている。他には在宅時のヘルパーがたまに訪ねてくる方や、以前からのかかりつけの歯科医に定期健診に行かれる方がいる。	入居時に生活歴・趣味・意向等を聞き取ったり、日々の利用者との係わりの中から、今までの利用者と地域社会との関係を把握している。入居前の知人等が事業所を訪問した時の接待や馴染みの理容店への送迎等、利用者と地域社会のこれまでの関係性の継続に配慮した支援を行っている。	利用者がこれまで大切にしてきた地域との関係の把握が十分できるように、引き続き情報の把握に努めることが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異性の利用者同士でもいつも同じゲームをし合うような関係の方もいる。いつも固まっている4人の女性のグループがある。その他も、関わり合いの難しい場合は、さりげなく職員が間に入って、会話の橋渡しをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際にサービス終了後に職員がその家族を訪問したり、家族が来訪されたりする事例があった。また先方から電話があった場合は近況を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、利用者本人の声、希望、意向の把握に努めたり、生活史から推測したりして個別ケアを徹底している。	センター方式の様式を活用し利用者一人ひとりの個性を尊重した思いや意向の把握に努めている。日々のケアの中でも、車の中や入浴時等利用者と職員が二人きりになった時等に利用者がふと漏らす言葉に耳を傾けている。意思の疎通が難しい利用者は利用者の言動・表情、家族からの情報等から利用者の立場に立って思いや意向を推測し時々の状況に応じた支援を行っている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用した生活史を含むできるだけ細かなサマリーを家族から入手し、また職員同士が情報を共有して、サービスに活かすようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が個別に各利用者をよく観察し、現状の把握に努めると共に、日々の変化に対応できるようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議、およびケアカンファレンス(大小問わず)において職員間で話し合うと共に、随時家族の意見を聞き、介護計画の見直しなどを図るようにしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について検討するため、一部センター方式を採り入れ、本人・家族の希望・意向等を踏まえながら、かかりつけ医・看護師・居室担当者等の意見も反映させて、基本的に3ヶ月毎に計画を作成(見直し)している。毎月開くスタッフ会議・カンファレンス等で利用者一人ひとりの目標に対する実施状況や今後の対応を確認して、モニタリング・達成評価書を作成し、次の計画に結び付けている。入院や歩行が困難になった等利用者の状況や家族の意向が変化した時は、期間に関係なく現状に即した計画に変更している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や介護観察記録に詳細を落とし、職員間で情報を共有し、個別ケアの実践に活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各利用者の希望による外出に同行したり、リクエストによりメニューを変更したり、また個別に買出しに行くなど、柔軟に個別サービスを創造するよう努力している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年数回の全体行事に地元ボランティア団体を招聘したり、地域の自治会と協働し、利用者も参加できるような防災講習会を開催したりしている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医が定期的に来訪して診察を行っているが、以前からのかかりつけ医を引き続き受診している利用者の事例もある。	月2回内科医による定期的な往診があり、多くの利用者は投薬や緊急時対応の利便性等から往診医をかかりつけ医としているが、今までのかかりつけ医で引き続き受診している利用者もある。歯科等の通院介助は基本的には家族が行うが、家族等のその時々状況により柔軟に対応している。往診時や事業所・家族が通院介助を行った場合の受診結果等については、お互いに報告を行い情報を共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に一回定期訪問し、個々の利用者の体調チェックを行っており、その際、介護職員は利用者の日々の状況などを伝え、相談している。また、その看護師は24時間連絡が取れる体制になっている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時にはできる限り職員が面会に行き、家族、および病院関係者と面談して現状把握に努めると共に、早期退院のための話し合いを持っている。	利用者入院時には、かかりつけ医から「紹介状」を、また事業所から必要に応じて利用者の日々の暮らしぶり・服薬状況・ADL等を「介護サマリー」で、入院時に於ける本人の支援方法に関する情報の提供を行っている。入院中は見舞いに行き、安心しての受療と早期の退院に向けて関係者と話し合っている。退院時には積極的にカンファレンスに出席し、「看護サマリー」等の提供を受けて、食事形態等退院後の事業所での支援に活かしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各利用者の重度化、また終末期における指針がある。また実際に当事業所で終末期を迎えた利用者がおられ、地域の訪問看護ステーションと連携して支援に取り組んだ事例がある。	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時に「御入居者が重度化した場合の対応指針」で事業所が対応し得る支援方法の説明を行うとともに、「緊急対応に関する申し合わせ書」で重度化や終末期に向けた家族・本人の意向等を緊急時の対応も含めて確認し同意を得ている。利用者が重度化してきた時は、かかりつけ医等関係者を交えて繰り返し話し合い、話し合った内容を記録として残し方針を共有している。	



自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の対応の講習、訓練を数回行ったことがあるが、今後これをより定期的に行い、全職員に浸透させて言って欲しいという要望も職員からあった。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会との協働で、消防訓練、防災講習(いずれも利用者代表が参加)を行ったことがある。今期は一部の利用者も参加して避難誘導訓練を行った。今後これを定期化して行きたい。	直近1年では、利用者も参加して、深夜帯出火想定での避難誘導・通報・消火訓練を1回実施した。運営推進会議を通じて、地域への協力依頼を呼びかけている。事業所内に缶詰・インスタント食品等の備蓄を行っている。年度内にさらに1回訓練を実施する計画がある。	夜間の利用者の避難誘導方法を、全ての職員が実際に身に付けているには至っていないので、少なくとも年2回、シューターの使い方等実践的な訓練を定期的に行い、機会ある毎に事業所の状況や災害時の対策を話し合っておくことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、人格を尊重する気持ちを持ってケアを行っているが、まだまだ出ていない部分も多く、改善する取組みを行いたい。	日々の係わりの中で利用者の人格を尊重した声かけ・対応を心がけ、プライバシーの確保に努めている。例えば「遠くから呼びかけない。近くに行って声をかける。」居室のドアの開閉は「返事があるまで待つ」等の配慮を行っている。「家族への手紙」に掲載する写真等は家族の了解を得、個人記録類は事務室の鍵のかかる書庫に保管している。	研修会や日々の業務の中での確認などにより、職員全員が認識を共有し実践できるような取り組みが継続されることを期待する。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに対し質問形式での声かけに努め、その自己決定を促し、尊重する気持ちをもってケアを行っているが、同様に出来ていない部分を改善する取組みを行いたい。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側からスケジュールの押し付けをせず、一人ひとりのペースを尊重したケアをしている。一方で職員側から昼夜逆転を防いだり、寝たきりなるのを防止したりする配慮を行っているのも事実である。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択など、利用者の自己決定を促したり、その方の趣向に沿うよう配慮している。また、利用者のリクエストにより訪問美容を手配したり、馴染みの理髪店に同行したりしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを反映したメニューを臨機応変に取り入れることがある。出来なくなってしまった利用者が多い中、簡単な調理、盛り付け、後片付けなど一部分を適宜、一緒に行っている。	基本的に委託業者が献立を考え、必要な食材を素材のまま搬入し、事業所で調理を行っている。年3回程度、業者の調理担当者が来訪し、寿司・てんぷら・うどん等の「調理実演」を行い、事業所内で外食の雰囲気を味わいながら食事を楽しんでいる。時にはおやつバイキングの機会も設けている。食事づくりに参加する利用者が減少しつつある中、盛り付け・後片付け等利用者個々の力量に応じた自発的な参加を支援している。職員も介助しながら同じ食事を食べ、家庭的な楽しい雰囲気ですら食事が楽しめるように配慮している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それらを一表にして記録に落とし、各利用者の摂取状態をきちんと把握し、健康管理に努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	画一的な方法ではなく、個々の利用者の状態や習慣に応じた方法で口腔ケアを行っている。但し、ほとんどは朝晩で、毎食後とは言えない。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の難しい利用者については、個々に排泄間隔の大体の見極めを行い、取り決めとして排泄の声かけを行うか、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導の声かけを行う等可能な限りトイレでの排泄を大切に支援を行っている。利用者の混乱や不安を招かずトイレに行けるよう「お便所」「お手洗い」「トイレ」の表示を利用者の目に付きやすい場所に表示している。利用者に意思を確認しながら「さりげない言葉がけ」を心がけ、羞恥心や不安を軽減する配慮を行っている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の認知症に及ぼす悪影響を理解し、個々に牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖などの食材を用いたり、必要に応じて薬を用いたりして、定期的に排泄が出来るよう管理を行っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で日時を決めることはない。適宜、利用者本位で入浴されたり、出来ない部分を介助しているが、一方その意思を示されないかたについては、大体の入浴間隔を見て、随時声かけ、促しをしている。しかし無理強いはしない。	職員の都合で曜日や時間を決めることなく、自立している人では希望があれば夜8時ごろまでと、利用者の生活習慣や希望を尊重し、個々に沿った入浴支援を行っている。車イス使用者には入浴用車イスの使用等利用者の状況に応じた支援を行っている。基本的には同性介助とし、負担感等で入浴を嫌がる人には時間を空けて声かけを行う等、一人ひとりの入浴忌避の原因に配慮した入浴支援を行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合で消灯、起床時間などは設けず、個々の生活スタイルを尊重し、支援する一方、昼夜逆転を防ぐようなさりげないケアにも努めている。眠れない方には夜勤者が寄り添ったり、添い寝をしたりすることもある。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の説明などの資料を適宜読み、各利用者の服薬状況について理解しようと努めているが、その徹底をもう少し図るべきと考えている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活史をよく読み、楽しみごと、気分転換などの機会を持てるように気を配っている。個別ケアをさらに徹底させたい。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は基本的に利用者本位であるが、現在、自分の意思で外出される利用者はほとんどいない。外出意欲の低下してゆく中で、日常的には近隣の散歩、年数回の遠出支援も行い、また外出のさりげない声掛けにも努めている。	近くの公園への散歩やスーパーへの買い物、時にはおやつティータイム等に日常的に可能な限り外出の機会が増えるよう努めている。外出意欲が低下している利用者にも、「ちょっと外出しましょう」とさりげなく声かけを行い、可能な限り外出機会が増えるよう努めている。車イス利用者も利用者に合わせて移動を配慮し、出来るだけ外出機会が均等になるよう努めている。また、「西宮ヨットハーバー」等普段は行けないような場所でも本人の希望を把握し、出かけられるよう支援している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を所持される利用者は非常にまれではあるが、その場合、職員はそれを安全に保管できるような支援、工夫をしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は常時、利用者が自由に使える状態にしてあり、必要に応じて職員が支援する体制にあるが、実際に使用される方はまれである。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険の除去、職員の清掃による清潔の保持、カーテンの開閉による採光の工夫、トイレの方向を示す張り紙、季節感を出すための飾り物(たとえば秋にはススキや金木犀を生けたり)、など暮らしやすく居心地のいい空間を演出するようにしている。	各フロアーに観葉植物・絵画等を飾り、また、適所にソファやマッサージチェアが置いてあり、利用者がおしゃべりやマッサージを楽しんでいる。花の好きな利用者の居室には好みの花の写真を貼ったり、トイレの場所への表示等利用者が混乱や不安を招かないよう配慮している。「すすき」を飾ったり冬季には「こたつ」を用意する等、季節感や生活感を採り入れながら、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファなどの位置を工夫し、また時には配置換えもして、各利用者が思い思いに居心地のよい居場所を確保できるように工夫している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ昔からの馴染みの家具や物品を持ち込んで頂き、穏やかに居心地よく過ごして頂けるよう支援している。	ベッドを利用している利用者がほとんどであるが、居室の床に直接布団を敷いている利用者もおられ、家族の写真・ぬいぐるみ・パンフラワー等利用者の使い慣れたものや馴染みのものが持ち込まれて、利用者の趣味や生活歴が反映された居心地よく過ごせる居室となっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ危険物、障害物を取り除き、また張り紙などをうまく利用して、安全かつ分かりやすい空間を作れるよう工夫している。		